

かぜのきざし

2012 JUNE

# 風の萌

特定非営利活動法人(NPO)  
在宅ケアを支える診療所・  
市民全国ネットワーク機関紙

第019号

2012年9月10日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

## 「在宅ケアの同志たちよ。いざ高知につどわん。」

全国の集いin高知2012大会長 医療法人大和会 社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会 理事長 福田善晴

福田善晴



◆医療法人大和会社会福祉会  
法人 秦ダイヤライフ福祉会  
理事長 福田善晴氏

「第18回全国の集いin高知」(9月16・17日)大会長の福田善晴です。

大会まで残すところ一ヶ月余りとなりました。「風の萌」でご挨拶できるのも今回が最後になると思います。準備に追われドタバタ劇の毎日です。さほど忙しい訳でもありませんが、思うように進まず、皆さんにご迷惑をお掛け致しております。また、このたび皆さまに協賛広告のご協力をいただき誠に感謝申し上げます。

全国大会に先立ち、平成23年10月10日、徳島プレ大会「みんなで支える在宅ケ

ア」(村山善紀会長)、平成24年2月24日香川プレ大会「老いても病んでも我が家で暮らせる地域づくり」(三宅敬二郎会長)、平成24年5月20日「在宅療養 最前線」(永井康徳会長)を行えたことは、大変有意義でありました。それぞれに多種職種協働に熱い情熱と深い関心を感じ、すでに、在宅ケアに對し大いなる一歩を踏み出しておられ、今後のさらなる進展が期待されました。今まで、隣県でありながら交流が盛んではありませんでした。したが、プレ大会を通じて四国には多くの同志が出来ること、新たな繋がりが出来たことに喜びと心強さを、そして勇気を頂きました。

さらに、平成24年7月28日長崎県でプレ大会「介護保険」(2025年にむけて考える)」、8月5日大阪府でプレ大会「全ての住民の暮らしを地域で支える医療とケアのネットワークの構築を!」が開かれました。会長を務めていただきました石田一美様、中島啓子様、に感謝いたします。

全国大会は今年の総決算の意気込みで頑張りたいと思っております。高知県は、少子高齢化、過疎化していく地方の代表です。この地域で生まれるケアシステムは、将来の都会にも訪れるであろう高齢化等の問題対処に必ず繋がります。

「おらんく(土佐弁で自分の家)で自分らしくさいごまで」

(地域の未来を考える)というテーマを掲げ、自宅のみならず、住み慣れた地域において、自分らしくさいごまで暮し続けられるよう支え合うために、実践交流会も多くの分野に分けて企画いたしております。皆様のアイデアや取り組み、そして苦悩なども含め、多様な意見交換、ディスカッションを繰り広げ、新たな在宅ケアの構築に一役を担うことが出来ればと思っております。

今回の特別公演はワタミグループ創業者の渡辺美樹氏にお願いしております。広い見地から地域ケアの重要性について講演していただきます。

また、NPO理事の皆さま





ん、全国大会の実行委員の皆さんの協力で、とても興味深い内容の分科会が企画できました。御期待下さい。

ところで皆さん、「太陽と月」という映画を御存知ですか。1946年の世界遺産ともいえる日本国憲法はどのようにして誕生したのかを描いたドキュメンタリー映画です。私自身、以前は連合国司令部GHQが作ったものだと思っていたのですが、その源は明治時代の高知県(土佐)人にあつたのです。「自由は高知の山間より出ず」といわれる言葉は高知の人の誇りとなっています。自由と平等。大き

な文化の発祥が土佐の高知にありました。坂本龍馬以外にも新風を巻き起こしたルーツが沢山ありますので是非高知を探索していただきたいものです。

また、高知県には美味し物が沢山あります。高知県の郷土料理に皿鉢料理(さわちりょうり)があります。歴史をたどれば食後、酒を飲むために用意された肴の大盛りが元だということですから。お酒が好きな県民性もあります。型にとらわれず美味しいもの(良いもの)を全部入れてしまおうという豪快かつ合理的な考えから出来たのではないのでしょうか。このように良いものはどんどん取り入れていく柔軟な考えが幕末の志士や自由民権運動を生み出した土佐の気質なのでしょう。今回の全国大会でもより良いものを取り入れた在宅ケアの新しい始まりとなることを、期待しております。

是非、是非、高知にお集まりください。心よりお待ちしております。

# 全国の集いin高知2012 長崎プレ大会

秋櫻醫院 石田一美

平成24年7月28日(土)14:00~16:30 長崎県大村市  
長崎インターナショナルホテルにおいて、長崎プレ大会を開催し、行政・医療介護関係の方々約200名が熱心に参加されました。

今回のテーマは、介護保険。2025年に向けて考える。2000年にスタートした介護保険は12年が経過し、今年、医療保険との同時改訂がなされたところです。また、2025

年は、推計では、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になり、65歳以上の高齢者人口が、30%を超え、およそ3人に1人が、高齢者という社会です。私たちは、2025年にも耐えうる介護保険制度を考えて行かなければならない時期です。隣の韓国も日本同様の超高齢社会が見込まれていて、2008年には、日本の介護保険をも参考に、韓国版介護保険制度(長期高齢者保険制度)がスタートしています。

日本の介護保険とやや異なる制度が、4年を経過し、どのような状況であるのか比較してみることが、意義のあることだと思われまふ。

まず、初めの基調講演は、韓国の国民健康保険公団健康保健研究院 金道勲研究行政部長の「韓国の介護保険と日本の介護保険の違い」で、韓国の介護保険の概要が説明されました。

日本との違いとして、保険者は全国単一で、国民健康保険公団ですが、日本と同様に要介護認定者は年を追うごとに増加し保険料も増加しています。





また、日本の利用者の一部負担は、施設・在宅サービスともに10%に対して、韓国は、施設サービス20%、在宅サービス15%と両者に差をつけて、施設入所の負担を大きくしています。更に、僻地でサービス供給が少ない地域では、例外的に家族介護に現金給付をしているという事です。

興味が深かったのは、介護保険の認定区分は3つで、また、日本の利用者の一部負担は、施設・在宅サービスともに10%に対して、韓国は、施設サービス20%、在宅サービス15%と両者に差をつけて、施設入所の負担を大きくしています。更に、僻地でサービス供給が少ない地域では、例外的に家族介護に現金給付をしているという事です。

設サービスが20%と高く設定してあるのは、施設より在宅への誘導であることや、介護保険費用の増加を抑える意図もあることがわかりました。更に、今後国で入所施設を作るのは、施設サービス費用額の適切な設定のためであるということでした。また、現金給付は、例外的な位置づけであり、今後増やしていく考えはないそうです。

次の基調講演は、厚生労働省 振興課 稲葉好晴課長補佐の「24年度改正のこれから」地域包括ケアの実現に向けて」で、介護保険制度を取り巻く状況、介護保険法の一部改正で新たに出てきた地域包括ケアの考え方、また、今後に向けて介護保険制度の課題が詳しく説明されました。



続いてのディスカッションで、韓国の一部負担金が在宅サービスの15%に対して、施設サービスが20%と高く設定してあるのは、施設より在宅への誘導であることや、介護保険費用の増加を抑える意図もあることがわかりました。更に、今後国で入所施設を作るのは、施設サービス費用額の適切な設定のためであるということでした。また、現金給付は、例外的な位置づけであり、今後増やしていく考えはないそうです。

地域包括ケアシステムの現に向けては、24年度新たにできた定期巡回・随時対応サービスは、当初の予想より市町村からの申請が多かったということですが、今年度多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業として10月に名古屋の長寿医療センターにおいて都道府県のリーダー研修を実施。医師を中心に研修を受けてもらいその後の都道府県での地域リーダー研修で、多職種研修としていくそうです。各地域での多職種研修がスタートするのは、来年度以降の予定ですが、研修のみで多職種協働が進むわけではないことは、私たち自身がよくわかっていくことです。



エレクトロニクスで病魔に挑戦

**NIHON KOHDEN**

**わたしたちが、夢の実現をお手伝いいたします。**

**すべては、医院開業の成功のために。**

61A-0294

60 おかげさまで創立60周年

ヘルスケアの未来を拓く

〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4

創立/1951年8月

事業内容 / 医用電子機器の開発・製造・販売、医院開業支援

**日本光電 医院開業支援** **検索**

<http://www.nihonkohden.co.jp/iryo/practice/>

E-mail :Kaigyo@mb8.nkc.co.jp

# Mail Magazine

今回は「風の萌」より会員紹介のコラムの6～8月号を掲載いたしました。

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配布されている記事の転載版です。(スタイル等は一部変更しています。)メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。

事務局ニュース2012.6

## 医師・法人会員活動紹介

### 「南城つはこクリニック」

小山信一

沖縄で診療所を開業して、早くも4年目に入り、寄稿依頼が来て、NPOも沖縄まできたか、の感がありました。NPOは新会長のもと、ますます日本全国に在宅ケアを支えるシステムが広まっていくようにと、願っております。

さて、沖縄県の在宅医療と云えば、浦添市医師会のカジマヤクリニックの山里先生、それから、協同病院関係の「にじくりニック」が上げられます。しかし、皆さん頑張っておられますが、沖縄県



では大きな病院の救急がER方式で受診の垣根が低いので、在宅医療は少数派で、今後どのように展開していくか楽しみです。

私もは開院当初から、沖縄県の在宅ケアを支える診療所として、日夜励んでいるところですが、開院して1ヵ月も経たない頃、5月の連休前にケアマネジャーから連絡があつて、在宅患者さんを1人が紹介されました。患者で待ち合わせて初回往診しました。寝たきり状態の褥瘡のある90歳を超えた患者さんで、少し不安がありました。在宅管理指導の契約書を交わして、南城つはこクリニックの第一号在宅患者となりました。しかし、連休明けの次の訪問日を持たず、褥瘡の悪化と発熱のため救急搬送されてしまいました。

沖縄県では在宅ケアを受ける方は相当に重症者が想定さ

れていて、開業1年目はほとんど患者が増えませんでした。しかし、まずは、定期的な往診、訪問診療を理解してもらおうと、南城市ケアマネ

ジャー等研修会を開催し、勇美記念財団から2年間連続に補助金を受けて、新潟県の黒岩卓夫前会長や栃木県の太田秀樹副会長には、はるばる沖縄南城市まで来ていただき、ご講演をいただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。詳しくお知りになりました。

### 事務局ニュース2012.7

## 全国の集いin高知2012 愛媛プレ大会のご報告

### 会のご報告

NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク全国の集いin高知2012愛媛プレ大会」を5月20日(日)、松山市総合コミュニケーションセンターにて開催し、在宅ケアにかかわる県内外の医師、看護師など、医療・介護従事者、一般市民、約300名のご参加をいただきました。

本大会では、「在宅医療最前線」(在宅医療には、社会

い方は、勇美財団のホームページから報告書(2009年、2010年)を参照してください。

最初は苦労もありましたが、現在は40名余の訪問診療患者がいらつしやいます。沖縄にお越しの際は歓迎しますのでご連絡ください。皆さんお元気にお過ごしください。

南城つはこクリニック  
〒901-1414  
沖縄県南城市佐敷津波古433番地  
TEL098-947-3372  
FAX098-947-4570  
Email:tkoyama@vestaonline.jp

医療法人 ゆづの森 永井康徳

を変えようとするのテーマのもと、記念講演1「大災害時に求められる地域医療のあり方(気仙沼市立病院・横山成邦先生)」では、東日本大震災での災害医療に携わった経験談、災害時の高齢者支援体制での多職種連携がいかに有効に機能したかなどをお話いただき、記念講演2「高齢者が閉じこもらない都市環境整備をどう実現するか(世

田谷記念病院・酒向正春先生)では、超高齢化社会においては、都市環境をユニバーサルデザインとしてリハビリ環境を導入すること、地域社会や生活にリハビリ医療を導入、定着する事が必須であり、そのための都市整備計画が必要とのお話しを頂きました。また、教育セミナー「ヘルパーの医療行為をセミナー」では、ヘルパーのたんに吸引に関する法的根拠の説明、吸引の実技などの解説をおこない、「在宅医療の基礎知識セミナー」では、医療介護保険同時改正の要点などに関するセミナーを実施、「諦



観の見取り」では、自宅で最後まで過ごすために、介護者の心構えなどのセミナーをおこないました。

今後迎える多死社会の中、治せなくても最後まで支える医療の重要性をうったえ、この「支える医療」を在宅医療の

分野から発信し、社会を変えていきたいとの思いをお伝えし、盛会のうちに無事終了することが出来ました。大会を開催するにあたり多大なご尽力をいただいた関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

## 医師・法人会員活動紹介 「優和会松永醫院」

松永 平太

私は、海まで寝返り10回！のところに住んでいます。眼前の海から太陽が昇り、日本の朝日を毎日拝んでおりま

す。遠く見える水平線をよく見ると心房細動のように拍動しており、地球が生きている瞬間を感じさせてくれます。

自然というものは、魂に力を与え、こころ穏やかに優しくしてくれます。

南房総市千倉町は、房総半島をオチンチンに例えると外尿道口あたりであり、南北に海岸が走り、東は太平洋、西は山に挟まれた細長い街です。夏は海水浴、冬は温暖な気候を利用した花の栽培が盛んです。また、ドーバー海峡で獲れたアジを中国の研修生がひらき、房州産の水産加工品として出荷もしています。高齢化率が既に36%を超える超高齢社会であり、亀田メデイカルセンターという巨象が地域を守ってくれてもいます。

「専門なんて内科！」と言っている私の診療所は、シルバーカーと自転車で混雑する診療所です。選択肢の少ない田舎の医療環境では、いのちの流れ全てを守り切らなければならぬ、家庭医としての醍醐味があります。「地域医療とは？」と聞かれれば、「目の前の患者さんの、その10年未来のいのちを守ること」と答えています。

念願の自宅へ退院したのに「何をしたいですか？」という質問に「早う死にたい」と答える患者さん。また、「早う死にたい」と答えている患者さんに、少量のアスピリンと降圧薬などを処方している現状。いのちを支える医療、いのちを助け、いのちを元気にし、いのちを輝かせる医療が、優しい医療だと思ってしまうようになりました。少し長生きをし過ぎてしまったと溜息をついている人生の大先輩達が元気になつてもらうために、訪





医療法人社団 優和会松永醫院  
〒29510021  
千葉県南房総市千倉町平館764-1  
TEL: 0471-4410385  
FAX: 0471-4410901  
En:nhbeta@peach.ocn.ne.jp

問看護ステーション、ヘルパーステーション、通所サービスマス、グループホーム、老人保健施設などを作ってきました。私は、先発完投型の医療人生丸ごと応援医療を目指して来たのです。

この後の目標は、小学校の教室へ入りのちの大切さを伝え、苛原'sチルドレンとしてネットワークを支えて行くことです。

事務局ニュース2012.8

医師・法人会員活動紹介

「医療法人社団 潟東クリニックス」 福田喜一

NPOホームケアメンバーの皆様、新潟市で開業しております(医)潟東クリニックスの福田喜一と申します。新潟市は政令指定都市で人口70万人を超えています。私の診療所が在る西蒲区は見渡す限り田圃が続いている農村地帯です。今の季節は稲が育ち盛り一面が緑の絨毯で風が吹くと稲がそよぎ美しい光景が醸し出されます。また冬になると雪で今度は真っ白な銀世界になってしまいます。

26年間がん治療専門の消化器外科医として病院に勤務した後、2006年4月にこの地で開院しました。一度は家に帰りたいと望む末期癌患者さんの願いをかなえるべく、病院勤務医時代の2000年7月から在宅緩和ケアを開始・提供してまいりました。現在もライフワークとして続けております。開院当初から在宅療養支援診療所として「在宅



ケア」の推進とサポートを行っております。午前診療後、毎日午後から訪問診療に出かけ、診療所が近隣ないため地域の要望で夕方も通常診療を行っています。開院6年で訪問診療患者さんは月平均90名超となっております。特養の嘱託医に加え、小規模多機能型居宅事業所4か所とケアハウス2か所の嘱託医を仰

せつかつております。看取りは年30名程度です。医者一人ではそろそろ限界かなと感じております。

最後になってしまいました。が、NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの全国大会が黒岩卓夫会長の下、来年9月22日、23日に新潟市朱鷺メッセで開催されます。常々ご指導頂いている黒岩先生より、私が分不相応な全国大会の実行委員長を仰せつかりました。また副会長でNPO理事上村伯人先生のご援助を仰ぎつつ、実行委員一同一致協力の下、新潟らしいそして黒岩卓夫らしい大会にすべく準備を進めております。今年の高知大会にも出席させていただきます。皆さま来年はぜひ新潟にお越しください。お待ちしております。

医療法人社団 潟東クリニックス  
〒95910505  
新潟市西蒲区三方138-1  
TEL: 0256-866-1118  
FAX: 0256-866-1119  
En:nhbeta@peach.ocn.ne.jp  
HP: http://www.katohigashi-clinic.jp

在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク  
第19回全国の集いin新潟2013  
HP: http://homecare-niigata2013.geo.jp/

摂食回復支援食



摂食回復支援食とは… 通常の食事を取ることが難しい方の食べる機能と栄養摂取を支援するための食事です。

お問い合わせ・資料請求の連絡先

イーエヌ大塚製薬株式会社  
東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング13階

お問い合わせ窓口 TEL.03-3515-0170

月曜～金曜 9時～17時(祝祭日、年末年始、お盆を除く)



# これからのネットワークの歩み



◆ 畑 恒士(愛知県)  
あいち診療会 理事長

日本の医療のかなり多くの部分を診療所の医師が担ってきたことは言うまでもない。

在宅ケアを支える診療所市民全国ネットワークがスタートしたのは黒岩前会長が現場でこれだけ活躍している診療所医師が広く発信する場がない、そんな場を自分たちで作ろうと呼びかけたのがきっかけであった。

制度を作る人間は、現場の動きを知る手段を持たず、現場の人間はどのようにして制度が作られ、どうしたら意見を反映させることが出来る

のかを知らず。机上の空論と現場のぼやき、がぶつかるとうな展開の繰り返しだがネットワークの始まった頃だったように思う。

ネットワークの最大で根幹的な活動は全国の集いであることに変わりはない。それはスタートの時から全く変わっていない。ネットワークの会員にとって会員であることのメリットは何かということが幾度となく議論の俎上に載せられた。

全国の集いでは会員には参加費の割引があるが、実は地元市民はもっと安価に参加することが出来ることが多い。会員は会費を納め、参加費ばかりか協賛金まで払って全国の集いを応援している。

ネットワークを動かし、支えてきた人々は皆ネットワークから元気をもらってきた。そしてネットワークが在宅ケアの推進に力を発揮すると信

じその為に応援をしてきたのである。このネットワークがすでに役割を果たし、過去のものと感じたり、このネットワークから元気をもらえなくなったりと感じた時点で会員から抜けて行くことは自然の成り行きである。

厚生労働省の立場からすると在宅医療関係者、なかでも医師が一つにまとまってそこで意見集約がされることは制度作成上都合が良く、今その方向に動こうとしていることは明らかである。しかし、介護保険制度、医療保険制度などの公的サービスだけでは十分な在宅療養が保障されないことが明確になり、ケアを担いうる地域づくりが求められている現在、多職種の人間が運営に関わることで大きな役割があると思われる。

一般に大きな団体になればなるほど社会的発言力はますます、所属する個人の発言の価値は小さくなり、その団体の運営を担う一部の人の意見が強く反映されがちである。当ネットワークにしても同じ要素を持ち、現場の会員の意見が反映されにくくなっていることが危惧される。在宅医療で多くの人々と接し、全国各地の取り組みを共有してきた私たちには、現場には様々な問題点があり、一部の発言力のある人々の意見で作られた制度では切り捨てられる部分が多々あることを知っている。

私たちのネットワークは全国の集いでは毎回2000名近い参加者を確保しているが、会員数は500と必ずしも巨大な組織ではない。今再び原点に戻り現場の生の声を反映できる体制が出来るかどうかでネットワークの今後が見えてくると思われる。



## 介護保険法・高齢者住まい法改正大特集

- 第5期介護報酬予測  
〈訪問介護〉「24時間サービス」創設で基本報酬大幅減算  
〈訪問看護〉「報酬増より開設要件緩和」求める声  
〈通所介護〉基本単価減算の方向か  
〈特定施設〉前回プラス改定の反動は?  
〈小規模多機能型〉軽度の報酬増に期待 ほか
- 24時間定期巡回・随時対応訪問サービスの状況  
今年度モデル事業者の運営状況、既存居宅サービスとのすみ分け ほか
- 複合型サービス(小規模多機能型+訪問看護)の進展  
人員配置・報酬体系、24時間サービスとの連携 ほか
- 「サービス付き高齢者向け住宅」登録状況調査  
補助金申請状況、各自治体の登録状況、高齢者居住安定確保計画の作成状況 ほか
- 老人福祉法改正による影響  
入居一時金制度改定後、各老事業者の取り組み、有料老人ホームとサビ住の一体化問題 ほか

2012年新年特大号  
平成24年1月5日号

## 高齢者の住まいと介護・医療を考える 高齢者住宅新聞

新規購読のご案内

●発行形態/定期購読:クワイド版(20ページ) 月3回(5-15-25日)発行  
●主要読者層  
施設運営会社、介護サービス会社、医療法人、社会福祉法人、人材サービス、給食配食会社、不動産建設会社、土地所有者、設備機器・建材、システム関連、金融関連、自治体ほか  
年間購読料 18,000円(税込・送料別)

購読お申し込みは右記のいずれかの方法で

TEL **03-3543-6852**  
ホームページ <http://koureisha-jutaku.com> [新聞購読申込](#)  
メール [info@koureisha-jutaku.com](mailto:info@koureisha-jutaku.com)  
FAX **03-3543-6853**

\*高齢者住宅新聞購読とて用金のうえ、お名前、会社名、ご連絡先、ご住所をお知らせ下さい。

下記に必要事項をご記入の上FAX下さい。

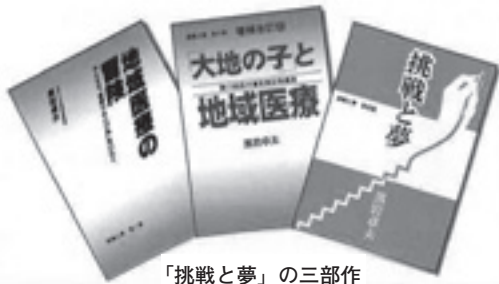
株式会社高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15  
TEL:03-3543-6852 FAX:03-3543-6853 <http://www.koureisha-jutaku.com>

## 萌気会 20周年記念式典開催

去る6月17日(日)、医療法人社団 萌気会の20周年記念行事が新潟県浦佐において行われました。

当ネットワークより苛原会長をはじめ畑事務局他理事を含め多数のメンバーの参加となりました。

萌気会は当ネットワーク発足の会長であった黒岩卓夫前会長の設立によるもので、言うまでもなく萌気会の歴史は前会長の歴史そのものである。それは記念式典であるにも関わらず「……私にとつての20周年は、型通りイベントだけでは済ませることができないと以前から考えてい



「挑戦と夢」の三部作



ました……」(萌気会会報『もえぎ241号』に掲載)とあるように、自身の執筆により作成された3部作「挑戦と夢」を中心に熱く語られた姿からもこの20年に込められた熱意に満ちた式典となった。

地元の食材を盛り込んだ会食後、伝統芸「越後 ござ」や萌気会各施設の見学会も行われ、夕方、閉会・解散となった。

## 福島プレ大会

テーマ **いだがい? かわりね~がい? つなごう地域の輪**  
(地域に根ざした医療、介護、生活総合支援を考える)

本大会は、「住み慣れた町で自分らしく暮らしたい」という願いを叶えるための「医療」「介護」「予防」「生活支援」「住まい」の5つの視点での連携の仕組みを、行政・医療・介護の各専門職の知恵と力を結集していこうとする明日への一歩と考えます。是非、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

開催日時 | 平成24年10月20日(土) 13:30~20:00  
(大会資料代500円、交流会3,000円) | 会場 | セレビアスカイパレス 福島県伊達市保原町西町139-1

基調講演: 黒岩卓夫 / 特別講演 千葉喜弘 / シンポジウム / 交流会  
現地見学会: 10月21日(日) 9:00~12:00 (参加費1,500円)  
バスにて(除染の現場/仮説住宅/介護の状況など伊達市の現状把握・課題等)  
参加お問合せ先: TEL:025-788-0880 山本・笠原まで

## 風の萌

2012年9月10日発行(第019号)

頒 価: 1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)  
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク

TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail:zenkokunet@home-care.ne.jp  
〒458-0007 愛知県名古屋市長区籠山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

## 編集後記

不規則な発行が続いていることに対しお詫び申し上げます。今年中には通常のペースに戻すつもりです。

いよいよ高知大会です、皆様による盛会をお願い申し上げます。

(T.Y.)